

平成 27 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 七 松 小 学 校

平成27年度 学校評価

[各校の重点取組について]

校内研究を中心とした学習指導の充実を図り、国の調査を参考に学校独自のテストにおいて全国平均を上回ることを目指す。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3.2	3
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着に向け、学力向上担当を中心とした協働体制のもと、学力・生活調査の結果を分析して対策を検討していく。 ・生活支援教員による通級指導の充実を図る。現在、本校児童12名、他校児童7名が通級指導を受けている。 ・支援が必要な児童には個別の指導計画を作成し、児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が毎日書いているスタディプランを利用し、学習計画や家庭学習などについて家庭との連携を図る。 ・七松版のノート基準によるノート検定を実施し、ノート指導による授業改善と学力定着を図る。 ・学期ごと(年3回)の理科朝会を継続するなど、子どもたちが意欲を持って取り組む授業を目指す。 ・通級指導を必要とする児童については、保護者の理解を得ることが一番の課題である。 		
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		2.9	3
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育と特別活動を充実し、年間指導計画のもと指導にあたるほか、兄弟学級による異学年交流を含む行事を設け、自己有用感や所属感を味わわせている。 ・早期発見、早期対応を基本に、児童の内面理解、いじめ防止に努め、関係機関と連携協力し、児童や保護者の相談しやすい体制づくりに努めている。 ・基本的な生活習慣の確立について、課題のある児童には家庭との連携に加えて、家庭児童相談室、保護課などの関係機関とも連携して対応にあたる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・七松カーニバルでは兄弟学級で協力してお店づくりをするなど、異学年交流を進めている。 ・こころの教育推進事業による講演会や、スクールカウンセラーの活用など、保護者も含めた相談体制の充実を図る。 ・関係機関の協力や職員の働きかけにより、不登校傾向だった児童の欠席が減ってきている。今後も、関係機関との連携を強化し、職員全体で課題解決に取り組むことが必要である。 		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む (1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.4	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・食育を推進し、ランチルームの活用や外部講師による食育授業を進めることで、望ましい食生活習慣の育成に努めている。 ・「健康チャレンジカード」を作成して「早寝・早起き・朝ごはん」を自己点検し、生活改善に取り組むことで、望ましい生活習慣への意識が高まってきている。 ・体育、スポーツ活動や保健活動の充実を図り、健康の増進や体力の向上に努めている。(さわやかランニング、長縄集会、保健・給食集会など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康チャレンジカード」等による生活習慣の自己点検をさらに推進し、すべての家庭で協力が得られるよう努める。 ・特に外での遊びが少なくなる秋季・冬季に、あまっ子ジャンプチャレンジランニングへの参加や長縄大会、マラソン大会の実施など、縄跳びやランニングを業間運動に取り入れ、体力の向上に努める。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域、関係機関と連携し、登下校の安全確保にはPTA会長を隊長に、保護者や地域住民による「見守り隊」が組織され、安全だけでなく、挨拶などの言葉がけにも力を注いでいる。 ・防災・避難訓練を柱に、危険予測や危機回避能力の育成に努めるため、休み時間での実施など、突発的な状況を想定した避難訓練を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊の方々が高齢化している。PTAとも連携して、連協に協力を依頼するとともに保護者や教職員の協力も得て進める。 ・いろいろな想定による避難訓練を実施し、危険予測や危機回避能力の向上を図る。 ・警察の協力による不審者対応研修を実施し、職員の危機管理能力の向上を図る。 	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を核にして、全職員の指導案を作成しての授業公開を実施している。また、校務分掌については、初任者や若手教員を中心に、OJTによる職能開発、向上に努めている。 ・図書館利用やクラブ活動への保護者・地域人材の活用、オープンスクールの実施やホームページの充実に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベテラン教員が減り、初任者や若手教員が大変多くなっている。校内での授業公開、事後研究会等を通して若手教員を中心とした教員の指導力向上に努める。 ・図書ボランティアやクラブ活動の指導など、保護者や地域の協力を得ているが、新たな人材の発掘も必要である。 	

教育目標	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	2.9
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成にあたっては、学習基盤が大切となる。「凡事徹底」「あいさつ・あつまり・あとしまつ」をすべての教育活動の基盤とし、全職員が共通した指導にあたる。 ・学年・学級経営案を作成し、指導の重点を明らかにして指導にあたる。また、全職員と面談を実施し学級や学年、担当分掌を含めた取り組みを管理職と共有して問題解決にあっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ・あつまり・あとしまつ」や年間の生活目標など、朝会や学級会の話題として取り上げるにより、規範意識の高揚を図る。 ・問題が起こった時には、学年全体や担当者との情報交換を行い、管理職を含めて共有することで、早期の問題解決にあたる事ができる。 	

研究テーマ	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3.1
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・国語科を中心に研究授業を実施し、授業研究会や研修会を通して思考力を高める学習指導の在り方について協議している。 ・大阪体育大学教育学部 上月敏子准教授に指導助言を依頼し、若手教員を中心とした学習指導の充実に努めている。 ・学習のめあてを明確にし、授業の終わりに振り返るなど、統一した学習スタイル「七松スタイル」を利用し、全職員が共通した学習指導を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の校内研究はペアトークやグループトークなど、話し合い活動を中心とした指導方法について授業研究、研究協議を進めている。 ・若手教員を含め、全職員が研究テーマや内容を理解し、統一した学習指導が行えるよう研究会や研修会を実施する。 	

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <p>若い職員が多いが、職員全体で協力し、共通理解することが大切である。そして、生活指導や学習指導など、同じことを全校で取り組み、学年に応じて積み上げていくことを今後も継続してほしい。 植樹によるたくさんの実のなる木々やビオトープ等、本物に触れながら生活できる子どもたちは幸せである。</p>	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>あいさつができない子ども、何かのきっかけでできるようになるので、継続してあいさつ指導を続けてほしい。朝から元気な声であいさつを交わす時の気持ちのよさを感じさせたい。</p>	3
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <p>食育については、日頃なかなか体験できない多彩な出前授業を行っている。また、長なわとびの記録も好成績でよい取り組みである。</p>	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>見守り隊やPTA、警察の方々のおかげで、児童の登下校の安全が守られているのはありがたいことである。</p>	3
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>PTAや地域の方がよく協力してくださっている。「七松小学校が大好きです。」という声がたくさん聞ける、そんな学校にみんなで行きましょう。</p>	3.5
<p>■教育目標</p> <p>現在の教育目標は、学校でのねらいをきちんと表しているので、このままでよいと思う。</p>	3
<p>■研究テーマ</p> <p>国語はすべての学習に関わる大切な教科なので、これからも継続して取り組んでほしい。</p>	3
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	<p>評価Ⅳ</p>
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B